

「明日を心配しない」(キリストの弟子の生き方⑤)

マタイの福音書 6章25～34節

私たちはだれでも将来を心配します。それは不思議なことではありません。しかし心配には適切な心配もありますし、病的な心配もあるのです。心配が増して不安になると、明日を期待することができなくなるだけでなく、今日の日を平安で喜ぶことができなくなります。

私たちから心配の材料がなくなることはないかもしれませんが。しかし信頼できる神を見出すならば、心配を委ねることができるようになります。



① 私は何が心配なのだろう

“ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。” 6:25

② 満ち足りていることを学ぼう

“空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。…今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないのでしょうか。…” 6:26-

“乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに飢えることに、富むことに乏しいことに、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。” ピロ 4:11-

③ 天の父である神に信頼しよう

“しかし、あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。” 6:32

“ですから、あなたがたはこう祈りなさい。「天にいます私たちの父よ…」” 6:9

<ふりかえって考えてみましょう>

- ・自分にとって一番思いわずらいになることはどんなことでしょうか。家族のこと？健康のこと？、お金のこと？、教会のこと？、日本の国のこと？、その他？そのことが人生にそのような影響を与えていると思いますか。分かち合ってみましょう。